

本調査の実施概要

1. 調査目的

L S 研情報化調査は、「会員企業における I T 活用に関する調査」を目的に、新規設問と従来調査からの定点観測により、会員企業の現在並びに将来に向けての I T 活用に関する動向を調査する。今年度は従来の調査項目についても、改めて環境変化に即した見直しを行った。また、今回のテーマで重要な調査結果に関しては、外部データ等による分析、考察を行い、各会員企業の経営者層への情報化推進の指針となる報告書を作成する。

2. 調査テーマ①「業務改革への取り組み」

富士通が提唱しているフィールド・イノベーション、業務改革については、今年度 L S 研イベントでも関心が高く、研究分科会とマネジメント分科会で相次いで取り上げられている。そこで、本調査でも「業務改革に対する取り組み」を取り上げ、情報システム部門の関わり方なども合わせて、会員企業各社の取り組み状況について調査・分析・考察を行った。

3. 調査テーマ②「システム運用への取り組み」

近年、仮想化によるインフラの集約や統合により、システム運用に対する考え方に変化が現れている。L S 研イベントでも、I T サービスマネジメントやシステム運用の考え方について高い関心を集めており、ジョイントフォーラム／ミニジョイントフォーラム、L S 研セミナー、研究分科会等で議論を行っている。そこで、本調査でも「システム運用に対する取り組み」を取り上げ、関連技術に対する関心や取り組み状況も含めて調査・分析・考察を行った。

4. 調査項目

主な調査項目は以下のとおりである（アンケートは 63 ページ参照）。

【『親会社』向けの調査項目】（★：今年度新規設問）

①「団体概況」

- ・売上高、従業員数
- ・情報システム部門の要員数

②「情報システム部門に求められる役割と課題」★

- ・情報化に関連する中心的な役割の所在
- ・情報システム部門における課題

③「情報システム部門の I T 投資状況」

- ・全社情報システム関連費用
- ・新規情報システム投資と固定的情報システム経費の比率
- ・新規情報システム投資と固定的情報システム経費の目標とする比率 ★
- ・I T 投資の目的 ★
- ・システム中期計画について ★
- ・情報システム部門から見た業務課題 ★

- ④「主要ITテーマに対する取り組み状況」★
- ⑤「業務改革の推進における体制、課題」★
 - ・業務改革を推進する際の社内体制
 - ・業務改革を推進する際の課題
 - ・業務改革における情報システム部門の貢献度、外部リソースの活用度
 - ・業務改革を推進する際に求めるスキル
 - ・情報システム部門と利用部門の人材ローテーション
 - ・業務改革における業務の可視化
- ⑥「企業システムの運用に関する現状と今後の方向性について」★
 - ・運用システム規模
 - ・運用業務の対象領域
 - ・運用における課題認識とそれに対する取り組みについて
 - ・運用業務に関する状況把握（可視化）について
 - ・構成管理実施状況
 - ・CMDB導入状況
 - ・運用の自動化について
 - ・グローバルにおけるITシステム運用について

【『情報子会社』向けの調査項目】（★：今年度新規設問）

- ①「団体概況」
 - ・売上高、従業員数
 - ・要員数
 - ・親会社・グループ会社からの出資／売上の割合
 - ・提供サービス分野への取り組み
- ②「情報子会社の役割と課題」★（親会社およびグループ会社の視点による）
 - ・情報化に関連する中心的な役割の所在
 - ・情報システム部門における課題
- ③「IT投資状況」（親会社の視点による）
 - ・全社情報システム関連費用
 - ・新規情報システム投資と固定的情報システム経費の比率
 - ・新規情報システム投資と固定的情報システム経費の目標とする比率★
 - ・IT投資の目的★
 - ・システム中期計画について★
 - ・情報システム部門から見た業務課題★（親会社およびグループ会社の視点による）
- ④「主要ITテーマに対する取り組み状況」★（親会社およびグループ会社の視点による）
- ⑤「業務改革の推進における体制、課題」★（親会社およびグループ会社の視点による）
 - ・業務改革を推進する際の社内体制
 - ・業務改革を推進する際の課題
 - ・業務改革における情報システム部門の貢献度、外部リソースの活用度

- ・業務改革を推進する際に求めるスキル
- ・情報システム部門と利用部門の人材ローテーション
- ・業務改革における業務の可視化
- ⑥「企業システムの運用に関する現状と今後の方向性について」★（親会社およびグループ会社の視点による）
 - ・運用システム規模
 - ・運用業務の対象領域
 - ・運用における課題認識とそれに対する取り組みについて
 - ・運用業務に関する状況把握（可視化）について
 - ・構成管理実施状況
 - ・C M D B 導入状況
 - ・運用の自動化について
 - ・グローバルにおける I T システム運用について

【『独立系情報サービス会社』向けの調査項目】

- ①「団体概況」
 - ・売上高、従業員数
 - ・要員数
 - ・提供サービス分野への取り組み
 - ・主要顧客の業種
- ②「主要 I T テーマに対する取り組み状況」★
- ③「企業システムの運用に関する現状と今後の方向性について」（外販サービス提供者の視点による）★
 - ・運用における課題認識とそれに対する取り組み
 - ・運用業務に関する状況把握（可視化）について
 - ・C M D B 導入状況
 - ・運用の自動化について

5．調査方法

郵送方法（郵送した調査用紙に回答し返信してもらう方法）および W e b 回答方法（ホームページ上に掲載した調査用のページに回答してもらう方法）

6．実施期間

2008 年 7 月 3 日（送付開始）～2008 年 9 月 2 日（回収終了）

7．集計結果の留意事項

調査の集計結果の数字は四捨五入としたため、内訳の合計が 100%にならない場合もある。